

平成23年度第2回中原区区民会議運営部会会議摘録

○日 時 平成23年9月16日（金） 午前9時30分～11時30分

○場 所 中原区役所4階403会議室

○出席者 板倉委員、川連委員、杉野委員、鈴木委員、松本委員、

（事務局）石澤副区長、企画課：綱島課長、服部課長補佐、園田担当係長、深谷職員

（行政関係者）こども支援室：豆白室長

（委託契約業者）石塚計画デザイン事務所

○欠席者 ・房委員

○傍 聴 なし

○報 道 なし

○次 第

1 開会

2 会議録確認委員の選任

⇒杉野委員を選任

3 議題

（1）区民祭での区民会議の参加について

（2）アンケートの実施及びウッドデッキを活用した取組の確認

（3）第3のテーマ「区制40周年の取組」について

事務局：中原区区民会議運営部会要領（以下、「要領」という。）第5条第2項に基づき、委員の過半数の出席により会議は成立している。本日の資料は、資料1「第2回区民会議審議概要（抜粋）」資料2『『地域における子育て応援体制づくり』アンケート』資料3「子育て支援等関係事業及びアンケートの調査対象」資料4「区民会議『地域における子育て応援体制づくり』取組事業」資料5「区民会議における区制40周年の取組について（案）」資料6「区民会議における区制40周年の取組アンケート」参考資料「平成23年度区民会議交流会議準備スケジュール案」である。追加資料として「資料2『『地域における子育て応援体制づくり』アンケート修正版」「日程調整について」を配布した。

鈴木部会長：会議録確認委員を選任したい。前回は板倉委員であったが、今回は杉野委員にお願いしたい。（委員承認）。それでは、議題1「区民祭での区民会議の参加」について審議する。資料1の「区民祭の関わり」にあるように、7月15日に開催された第2回区民会議の区制40周年の審議の中で区民会議の周知として提案された。事務局から説明をお願いしたい。

事務局：区民会議を区民の方にもっと知ってもらうことは重要。ただし、区民祭の中でどのような形態や方法でアピールしていくのか議論が必要であり、資料6として委員にアンケートを行いたい。ただ、今年度については論議が間に合わないため、区民祭に合わせて市民ミュージアムの中庭で開催する「エコカフェ」の企画課の展示スペースを活用し区民会議の広報を行う。

鈴木部会長：事務局の説明について意見をいただきたい。

板倉委員：区民会議だよりや報告書、または、パネルなどを使ってもいいのでは。

松本委員：区民会議委員が出向いてもいいのでは。

鈴木部会長：区民会議委員の多くが区民祭に参加している。

杉野副部会長：区民祭について今後どのように関わっていくのか区民会議で話し合う必要がある。

鈴木部会長：区制40周年を区民祭でアピールすることではなかったか。

事務局：区制40周年の審議の中で区民会議のアピールも必要とされた。

鈴木部会長：今回は「エコカフェ」の中で実施し、事務局で対応してもらおう。次に、資料2、資料3、追加資料の「日程調査について」により、アンケートの内容及び期間を含めた調査方法を確認したい。まず、アンケートの修正について事務局から説明をお願いしたい。

事務局：修正版では、問9、問15の文言の訂正と問10-2を削除し、問12を問11に順序を変え、枝番号をなくすとともに、番号の整理を行った。

鈴木部会長：これについて意見を伺いたい。

松本委員：アンケートの対象を未就学児とすれば、問7の8「わくわくプラザ」はいらない。「ママカフェ」などを行っている市民ミュージアムも入れていいのでは。問4の児童館を削除し、こども文化センター（児童館）としたほうがいい。

板倉委員：分析の方法は。問2の6、60代以上をチェックされた場合、その世代の意見をどうするのか。

事務局：どのように分析するかはまだ確定していない。子育て中の親に代わって回答しているのか、本人の意見なのか判断できない。とりあえず世代における意見とする。

鈴木部会長：委員の日程を確認し、調査を行う日を調整した上で10月19日の本会議で決定していく。

松本委員：調査人数としてはどれぐらいか。

事務局：10月から12月までの3か月、1歳6か月、3歳児の健診、ポリオを対象にした場合、概算ではあるが約3,000ぐらいである。

鈴木部会長：子育て関係のどこにもつながっていない人たちの意見を考えるのであれば、健診の場を活用していく。期間も長くやる必要はなく、10月から12月までの約3か月としたい。健診に来た人全員にする必要はなく、できる範囲で行っていく。次に、ウッドデッキを活用した取組について事務局から報告をお願いしたい。

事務局：反町委員と岡本委員と打ち合わせを行い、資料4のとおり「子育てふれあいカフェ」として10月21日の3歳児健診に合わせて開催する予定である。時間は、午後1時30分から4時までで、紙人形を使った遊びやミニコンサート、オープンカフェ、幼児食の試食を考えている。子育て中の人たちとの交流の場として何らかの応援体制ができればと考えており、区民会議委員にも時間的に都合がつけば参加をお願いしたい。雨天に際しては、会議室も考えたが、平日でもあり、会議を行っている部署もあるため、また、健診会場からも離れており、荒天でない限りそのまま開催する。10月19日の本会議で反町委員から話してもらおう。

鈴木部会長：当日アンケートも行う。

松本委員：3歳児の健診に合わせて行うのであれば、子どもの動きも活発で、しかも屋外でもあり、警備を含めてそれなりの対応と体制が必要。

鈴木部会長：区民会議委員も積極的に参加し場を盛り上げるとともに、アンケートの配布回収、警備など役割を分担しながら協力する。区民会議委員としてわかるように名札をつける。

杉野副部会長：アンケートの記載中、子どもを見ている必要がある。ウッドデッキでは催しに子ども

もが参加している間に記載すればいいが、それ以外の場所での調査方法は考える必要がある。

事務局：健診の受付は午後1時から1時30分までで、健診は午後4時までとなっている。健診の流れを止めないように調査したい。

鈴木部会長：配布及び回収方法はもう少し考える必要がある。クリップボードなどを用意し簡易に記載できるようにする。

松本委員：健診も年齢に応じて調査を行うのであれば、集計の際に区別した方がよい。年齢に応じたニーズが把握できる。

鈴木部会長：アンケート用紙に健診の区分が分かるようにする。次に、区制40周年の取組について審議したい。区民会議は、平成18年の試行を経て、現在第3期目であり、区の40周年を1つの区切りとして、これまでのことやこれからのことも考えてみていいのではないかと。ただ、考えるだけでなく、区民会議としてできることを区制40周年に絡めながら色々やってみてはどうか。事務局から区制40周年の方向性について説明をお願いしたい。

事務局：資料5のとおり、区として20周年ではシンボルマーク、25周年に区の花の制定、30周年になかはらの歌「この街のどこが好き」、区誌として「わたしたちの中原」を作製している。40周年では写真集の作製、冠事業の実施を予定。今後、区民会議として区制40周年をどのようなものとして位置付けるのかが必要である。区を盛り上げること、区民会議として振り返りを行ない次につなげることを区制40周年の意義とした場合に、区制40周年に1つテーマ性を持たせることでこれが可能と考えた。また、Ⅲとして取り組む際の基本的な方向性を記載した。無理なく行なうことができるもの、残すことや活かせるもの、地域の活用、地域に根ざしたもの、効果と費用の関係などである。Ⅳでは、例として考えられる取組の形態などを示した。こうしたことを踏まえ、アピール性や一体感が生まれるようなものを目指して、資料6として各委員の活動の中でアピールできるような取組を含め意見を求めてはどうか。また、区制40周年を契機としてアピールすることができるものとして、市民報告会をうまく活用できればと考える。来年の5月を予定しており、色々な提案により調整を図っていきたい。

鈴木部会長：テーマを設定することについて伺いたい。

杉野副部会長：来年度はちょうど3期から4期への切り替えの時期にあたる。市民報告会もいいのだが、人が注目するものとしてイベントがいいのでは。パンジー体操も高齢者に難しくなっており、もう少し簡単なバージョンをつくり、あまり聴かなくなったなかはらの歌も復活させ、イベントで披露していく。大規模でなくてもいい。

川連委員：なかはらの歌は商店街の色々なイベントの中で披露するようにしている。テーマの設定は難しい。各委員に意見を聞く。

板倉委員：区民会議としてイベントを実施するのは難しい。今まで取り組んできたことを振り返るのもいい。中原区を知るための講座を区の職員などを講師に5回くらい開く。

鈴木部会長：知りたい中味は。

板倉委員：これからの中原として再開発の状況、市の施策の中味などシルバー世代を対象に実施する。

鈴木部会長：中原散策ガイドの会が、歴史と中原を知ることがテーマにしてまち歩きを実施したが盛況だった。テーマを絞ることは重要である。ただ、連続講座は難しい。有名な講師が来るなど人が集まる要素が必要。

松本委員：区民会議でイベントやシンポジウムを実施するのは、委員がそれぞれ団体や個人の活動を持っており難しい。区民会議が取り組んできたことやこれからの中原について、若い人たちが参加するイベントの中で、変わりゆく中原をもっと若い世代の人に伝えながら愛着が持てるようにメッセージとして伝えていきたい。区民会議でも30代、40代の委員が少なく、若い人たちの意見を聞くことができない。

川連委員：商店街で寄席などを有料で行っても、それなりの費用をかければ高齢者や若い人も多く参加する。市民報告会でも娯楽的要素を交えて開催するのも1つの方法だが費用がかかる。

鈴木部会長：せっかく市民館で市民報告会を行うのに報告だけというのはつまらない。2期目の市民報告会では友石竜也さんの歌と藤嶋委員の会の踊りがあった。中原の昔を良く知る5地区の人をパネリストとして、易しく分かりやすく面白く中原を語れるような人をコーディネータにシンポジウムを開く。町内会の人たちにも来てもらい、区民会議の報告も行う。

板倉委員：写真展自体がテーマとして成り立つのでは。

川連委員：音楽祭もいいのでは。企業や学校の吹奏楽団による演奏会を行う。

鈴木部会長：演奏会であれば別に市民報告会でなくてもよく、逆に市民報告会でしかできないものが必要。

川連委員：難しい講座を行っても余り意味がない。

杉野副部会長：区制40周年を1つの区切りとして、市民報告会に大勢の方に来てもらう。

鈴木部会長：今回の話を踏まえ、本会議で各委員からの意見を基に集約しながら課題調査部会で詰めていきたい。事務局からアンケートや日程調整を各委員に送ってもらい、9月末までに回答をもらう。以上で運営部会を終了する。